

令和2年 新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

旧年中は、市政の発展に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。本年も、「温か笑顔の東温市」実現に向けて全力でまちづくりを進めてまいりますのでよろしくお願いたします。

スタートを切った新時代

昨年を振り返りますと、5月1日に新天皇が即位され、新たな時代「令和」が幕を開けました。

市民の皆様が、希望や夢を描く新時代の舵取りを任せられ、私も思いを新たにしたいと考えています。

希望に満ちた新時代ではありませんが、9月の台風15号の暴風被害に続き、10月には台風19号が関東甲信越や東北地方に甚大な被害をもたらすなど、全国で自然災害が相次ぎ、大規模自然災害の頻発化、大規模化、激甚化を改めて実感した一年でした。

また、令和の時代は、本格的な人口減少社会、高齢化社会へと突入する中、AI、IoTなどの新たな技

術が急速に進歩し、これらの技術を活用して様々な課題を解決していく大きな変革が訪れると言われており、そのスタートが切られた年でもありました。

本市としても、この変革の時代をチャンスとしてとらえ、様々な分野において新しい技術の活用を進めながら、市民の皆様とともに、地域の安心・安全の確保、コミュニティの再生や維持といった地域課題を克服し、将来にわたり発展し続けられるまちを目指して取り組んでまいります。

地方創生の深化

さて本年は、5年毎に行われる国勢調査の実施が予定されており、

前回の平成27年度の国勢調査における本市の人口は、34,613人で、人口増加が続いていた平成17年度の人口35,278人に比べ、10年間で665人減少いたしました。

人口減少・少子高齢化の進行による影響は年々深刻化してきており、本年の国勢調査の結果が大変気になるところでございます。

このような状況の中、人口減少・

超高齢化という本市が直面する大きな課題に対応していくため、「第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の評価・

分析結果を基に、現在、新たな第2期目の戦略の策定を進めており、引き続き、地方創生の深化に向けた切れ目ない取り組みを推進してまいります。

雇用と交流人口の拡大

主な取り組みとして、東温スマートインターチェンジ（仮称）や東温市田窪工業団地の整備を着実に推進し「安定した雇用環境づくり」による地域経済の活性化に繋げてまいります。

アートヴィレッジとうおん構想では、年間を通して「東温アートヴィレッジフェスティバル」を開催し、県の愛媛国際映画祭と連携した「8K映像演劇上映会」において2.5次元ミュージカルや海外の作品を上映するなど、話題性の高い事業を織り交ぜ、交流人口の拡大や市の認知度の向上を図ります。

福祉の増進と農業の振興

「健康福祉のまちづくり」では、市役所本庁の西側に建設中の総合保健福祉センター（仮称）の工事も順調に進んでおり、4月1日のオープンを予定しております。今後、保健・福祉・子育て・教育部門の機能を集約した新たな拠点として、多くの方々にご利用いただけ

る施設を目指してまいります。

また、農業振興では、「国道前道後用水Ⅲ期事業」の着手に向けた準備を進めており、農業用水の安全確保を図ることとしております。

強さとしなやかさをもつ地域へ

そのほか、防災・減災面では、国と地方が一体となって、「強さ」と「しなやかさ」を持った安全・安心な国土・地域・経済社会の構築に向けた「国土強靱化計画」の策定が求められています。「南海トラフ巨大地震」をはじめとした大規模自然災害に備え、本市の実情や地域特性を加味した計画を策定し、災害に強い強靱なまちづくりを目指します。

本市の住みやすさや独自の魅力を更に磨き上げ、市民の皆様が安心して暮らすことのできるまちづくりに向けて、職員一同全力を挙げて市政運営に取り組んでまいりますので、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

市民の皆様にとりまして、本年が明るく希望に満ちた素晴らしい一年になりますよう心からお祈り申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

東温市長

加藤 章

